



一般社団法人 日本土壤肥料学会 2019 年度（第 42 回）通常総会

[2019 年 5 月 11 日（土）13 時 00 分～14 時 10 分 東京大学山上会館]

次 第

開会

会長挨拶

議長選出

議 事

- 第 1 号議案 2018 年度事業報告、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告
- 第 2 号議案 2019 年度事業計画案および収支予算案
- 第 3 号議案 役員の新任・退任
- 第 4 号議案 名誉会員の推薦
- 第 5 号議案 総会議事録署名人の選任
- その他 2019 年度年次大会（静岡）の開催について
新会長挨拶

閉 会

一般社団法人 日本土壤肥料学会 2019 年度通常総会

議 事

第 1 号議案 2018 年度事業報告、事業報告の附属明細書、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告

I. 2018 (平成 30) 年度事業報告 (平成 30 年 3 月 1 日～平成 31 年 2 月 28 日)

1. 定期刊行物および資料の刊行

(1) 定期刊行物

- 1) 日本土壤肥料学雑誌 (会誌) は、第 89 巻第 2 号～6 号、第 90 巻第 1 号の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数等は次のとおりである。報文 17 編、ノート 12 編、技術レポート 4 編、講座 4 編、総説 1 編、資料・国内外情報等 38 編、学会賞受賞論文要旨 3 編、技術賞受賞論文要旨 2 編、奨励賞受賞論文要旨 2 編、技術奨励賞受賞論文要旨 3 編、進歩総説 13 編、ニュース (地域の動きを含む)、書評、欧文誌 Vol.64 掲載論文要旨、合計 614 頁、ほかに第 89 巻総目次、キーワード索引、著者名索引、会員消息、会誌投稿規程、原稿執筆規程、編集委員会だより、学会だより (土壤教育活動だよりを含む) 等。
- 2) Soil Science and Plant Nutrition (欧文誌) は、Vol.64, No.2～No.6 および Vol.65, No.1 の計 6 冊を刊行した。掲載した論文数等は、報文 84 編 (Full 74 編、Short 10 編)、総説 2 編、会誌報文抄録等、合計 786 頁となった。欧文誌の配布数は、名誉会員 9、正会員 316 (うち海外 25)、学生会員 74 (うち留学生 72)、国内寄贈・交換 5、海外寄贈・交換 21 等であった。
- 3) 日本土壤肥料学会講演要旨集 (第 64 集、304 頁) を 2018 年度神奈川大会に際して刊行した。

(2) その他の刊行物

日本土壤肥料学会の編集による Springer 社からの The Soils of Japan の刊行については、執筆が終わり、とりまとめ中である。日本の土壤の生成因子、分類、分布、特徴とともに、北海道、東北、関東・甲信越、東海・北陸、近畿・中国・四国、九州・沖縄における「土壤と農業・環境」を 6 支部が紹介する。

2. 講演会および研究会等の開催

(1) 「土と肥料」の講演会

2018 年 5 月 12 日、通常総会終了後に、東京大学弥生講堂において「土と肥料」の講演会を開催した。テーマは「食と農の将来を支える土と肥料の課題と展望～変動の時代における地力と資源循環の視点から～」、講演者と演題は金田吉弘氏 (秋田県立大学)「近年の大型機械化と多様な水稻栽培における水田土壤の課題と対応」および浅野智孝氏 (朝日工業株式会社)「地域資源を活用した混合堆肥複合肥料の開発経過と特性」であった。本講演会は日本学術会議の後援を受けて実施した。

(2) 2018 年度年次大会等

- 1) 2018 年 8 月 29 日 (水) ~31 日 (金)、日本大学生物資源科学部 (藤沢市) において年次大会を開催した。口頭発表題数は 235 題、ポスター発表題数は 242 題、合計 477 題であった。大会への参加者数は 849 名であった。
- 2) シンポジウムは、日本農芸化学会との合同企画シンポジウムおよび公開シンポジウムを含めて 8 つのテーマのシンポジウムを実施した。
 - 5,6,8 部門：土壌の生産力を持続可能にしよう！ -The Soils of Japan-
 - 5,9 部門：人為圧が決める土壌の境界線
 - 3,4,7 部門：【日本農芸化学会との合同企画シンポジウム】植物・微生物機能の解析・制御と食糧・バイオマス生産への応用展開
 - 2,4 部門：リン最前線：分子から圃場レベルの土壌肥料学と植物栄養学の連携
 - 9 部門：土壌倫理の射程 一食と農、リスク、未来世代—
 - 5,6 部門：【公開シンポジウム】富士山噴火は土壌、農業へどのような影響を与えたのか 一学際的視点からみる関東南部—
 - 4 部門：作物生産における酸化ストレス：傷害機構、耐性機構、危険予知による回避
 - 9 部門：【公開シンポジウム】いま改めて問う、土をどう教えるか—土壌教育の再設計と未来の学習指導要領—
- 3) ミニシンポジウムは、以下に示すテーマについて実施した。
 - 3 部門：菌根菌による有機態リン利用の可能性—現象・生理・分子—
- 4) 日本大学生物資源科学部本館大講堂において、以下の講演が行われた (8/30)。
 - 第 63 回日本土壌肥料学会賞受賞者
 - ・石黒宗秀：土壌中における水・溶質移動と界面電気現象に関する研究
 - ・信濃卓郎：作物生産向上のための根圏環境制御に関する植物栄養学的研究
 - ・白戸康人：土壌炭素動態モデルを活用した農地土壌への炭素貯留の評価
 - 第 23 回日本土壌肥料学会技術賞受賞者
 - ・伊藤豊彰：有機性資源の新しい活用法等を基盤とする環境保全的肥培管理技術に関する研究
 - ・清水 武：作物の養分ストレスに関する研究
- 5) 第36回日本土壌肥料学会奨励賞受賞者 (大森良弘、清水真理子) 及び第7回日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者 (東 英男、鎌田 淳、松本武彦) の記念講演については、神奈川大会一般講演会場で行われた。
- 6) 日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者 (八木哲生、松本武彦、大友 量、小林創平、三枝俊哉、岡 紀邦)、(松本成夫、織田健次郎、三輪睿太郎) 及び SSPN Award 受賞者 (Junta Yanai, Hiroshi Taniguchi, Atsushi Nakao) については、神奈川大会ポスター会場に受賞記念ポスターを展示した。

(3) 2018 年度支部大会

- ・北海道支部：秋季支部大会およびシンポジウム (11/29 於旭川市民文化会館 旭川市) が開催された。講演題数はポスター発表 44 題、高校生による研究成果発表 1 題であった。
- ・東北支部：支部大会 (7/3~4 於青森市文化観光交流施設 ねぶたの家 ワ・ラッ

セ 青森市) が開催された。講演題数は口頭発表 8 題、ポスター発表 11 題、合計 19 題であった。

- ・関東支部：支部大会 (12/1 於朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 新潟市) が開催された。講演題数はポスター発表 72 題であり、高校生による研究発表が 3 題、農業大学の研究発表も 1 題あった。
- ・中部支部：第 98 回支部例会 (11/29 於静岡大学静岡キャンパス農学部棟 静岡市) が開催された。講演題数は、口頭発表 7 題、ポスター発表 9 題であった。
- ・関西支部：支部大会 (12/6 於松江テルサ 松江市) が開催された。講演題数は口頭発表 36 題であった。
- ・九州支部：支部例会 (9/12～13 於東海大学熊本キャンパス本館 熊本市) が開催された。講演題数は口頭発表 13 題、ポスター発表 2 題であった。

(4) その他

- ・日本農芸化学会 2018 年度大会 (名城大学天白キャンパス) において、日本農芸化学会との合同企画シンポジウム「生物による無機元素の認識と反応の新展開」を開催した (3/16)。
- ・JST 俯瞰ワークショップ「フューチャーグリーン～持続可能な農林地利活用を目指して～(3/19)」に、講演者を派遣した。
- ・日本地球惑星科学連合 2018 年度連合大会 (5/20～24) のセッション「Materials transport and nutrient cycles in watersheds; Human and climate impacts」を共催した。
- ・第 31 回環境工学連合講演会 (5/22 日本学術会議講堂) を共催した。
- ・第 55 回アイソトープ・放射線研究発表会 (7/4～6) を協賛し、運営委員を交代した。
- ・第 28 回環境工学総合シンポジウム (7/11～12 早稲田大学西早稲田キャンパス) を協賛した。
- ・施設園芸・植物工場展 (GPEC 7/11～13 東京ビッグサイト) を協賛した。
- ・神奈川大会において、日本農芸化学会との合同企画シンポジウム「植物・微生物機能の解析・制御と食糧・バイオマス生産への応用展開」を開催した (8/30)。
- ・神奈川大会公開シンポジウム「富士山噴火は土壌、農業へどのような影響を与えたのか 一学際的視点からみる関東南部一」に関連して、日本ペドロロジー学会「プチ巡検 2 (9/1～2 神奈川県、山梨県)」を共催した。
- ・第 62 回粘土科学討論会 (9/10～11 早稲田大学西早稲田キャンパス) を共催した。
- ・地盤技術フォーラム 2018「土壌・地下水浄化技術展」(9/26～28 東京ビッグサイト) を協賛した。
- ・NARO-FFTC-MARCO 国際シンポジウム「アジア・太平洋地域の小規模農家へ貢献する気候変動対応型農業」(9/27～29) を後援した。
- ・第 13 回エコバランス国際会議 (10/9～12 国際ファッションセンター 東京都墨田区) を協賛した。
- ・第 17 回世界湖沼会議 (いばらき霞ヶ浦 2018 つくば国際会議場 10/15～19) を後援した。
- ・NARO-MARCO 国際シンポジウム「東アジアにおける窒素循環とその環境影響」

(11/19～22 つくば国際会議場)」を共催した。

- ・第 34 回近赤外フォーラム (11/20～22 北海道大学学術交流会館) を後援した。
- ・日本腐植物質学会第 34 回講演会 (11/23～24 東京農業大学 世田谷キャンパス) を協賛した。

3. 研究の奨励および研究業績の表彰

学会賞等選考委員会 (10/19)、論文賞等選考委員会 (10/19) および第 3 回理事会 (10/20) において、日本農学賞の候補者、日本土壌肥料学会賞、同技術賞、同奨励賞、同技術奨励賞、論文賞および SSPN Award の受賞者が以下のとおり選定された。

第 64 回 日本土壌肥料学会賞受賞者

- ・高橋 正：火山灰土壌の多様性の解明－アルミニウム-腐植複合体の機能を中心に－
- ・豊田剛己：連作障害の原因となる土壌伝染性病原菌・線虫の生態、診断、防除に関する研究
- ・早津雅仁：土壌微生物の物質変換機構の解析とその未知機能解明への展開

第 24 回 日本土壌肥料学会技術賞受賞者

- ・原 嘉隆：水稲湛水直播のためのべんモリ種子被覆技術の開発

第 37 回 日本土壌肥料学会奨励賞受賞者

- ・須田碧海：還元状態の土壌における有害元素の溶出・不溶化に関する研究
- ・西田 翔：大規模塩基配列解析技術を利用した植物の低栄養条件に対する適応機構の研究
- ・仁科一哉：マルチスケールにおける土壌の炭素・窒素循環の空間変動要因の解明および定量評価に関する研究
- ・増田寛志：鉄・亜鉛栄養価の高いイネの作出に関する研究
- ・横正健剛：イネのアルミニウム耐性と鉄輸送に関与する MATE 遺伝子の機能解析

第 8 回 日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者

- ・齋藤 隆：農耕地における放射性セシウムおよび土壌残留性農薬による作物汚染低減技術の開発
- ・速水 悠：施設栽培果菜類における灌水および施肥の適正管理技術の確立
- ・安田知子：家畜糞堆肥化施設由来臭気の生物脱臭技術の高度化に向けた研究開発

日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者

- ・金田吉弘、谷野弘和、高階史章、佐藤 孝、保田謙太郎：重粘土大区画水田における地下灌漑システム FOEAS が高温登熟条件下における水稲収量および外観品質に及ぼす影響
- ・松中照夫、中村亜紀良、橋本亜弓：酸性黒ボク土の酸性矯正による施与リンの肥効改善効果は黒ボク土やリン資材の種類によって変化する

SSPN AWARD 受賞者

- ・Mei Li, Michiko Yasuda, Hiroko Yamaya-Ito, Masumi Maeda, Nobumitsu Sasaki, Maki Nagata, Akihiro Suzuki, Shin Okazaki, Hitoshi

Sekimoto, Tetsuya Yamada, Naoko Ohkama-Ohtsu & Tadashi Yokoyama : Involvement of programmed cell death in suppression of the number of root nodules formed in soybean induced by *Bradyrhizobium* infection

4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

(1) 日本農学会関係

- ・平成 30 年度日本農学会シンポジウム「未来農学－100 年後の農業と農村を考える (10/13)」に協力した。当学会からは、舟川晋也氏・矢内純太氏が講演「ゼロ・エミッションの農業」を行った。

(2) 日本学術会議関係

- ・日本学術会議土壌科学分科会・IUSS分科会による提言「緩・急環境変動下における土壌科学の基盤整備と研究強化の必要性」要旨の英訳文を学会HPにリンクさせた。

(3) IUSS、ESAFS 等国際活動関係

- ・ヨーロッパ地球科学連合大会 (EGU、オーストリア・ウィーン) に代表者を派遣した (4/8～13)。
- ・ICSU: International Council for Science 総会 (フランス・パリ) に代表者を派遣した (7/2～7)。
- ・WCSS (ブラジル・リオ) に代表者および役員を派遣した (8/12～17)。
- ・ESAFS サポートオフィスの設置が承認された。

(4) 定期刊行物の寄贈・交換

内外の研究機関に対して定期刊行物を寄贈・交換した。

- ・日本土壌肥料学雑誌 国内 10、国外 15
- ・Soil Science and Plant Nutrition 国内 5、国外 21

(5) その他

- ・第 17 回日本農学進歩賞を三輪京子会員 (北海道大学大学院地球環境科学研究院) が受賞した (11/30)。
- ・平成 30 年度「農業技術功労者表彰」を加藤 淳会員 ((地独)北海道立総合研究機構道南農業試験場長) が受賞した (12/15)。

5. 本学会の委員会等活動

(1) 企画委員会

- ・「土と肥料」の講演会を企画し、日本学術会議の後援を受け、東京大学弥生講堂において開催した(5/12)。

(2) 土壌教育委員会

- ・委員会を 2 回開催した (4/21、8/29)。
- ・神奈川大会において「高校生による研究発表会」を大会 2 日目の 9:30～11:00 に開催し (8/30)、18 校 25 課題の発表が行われた。それぞれ発表者が説明し、大会参加者と熱心な質疑応答が行われ、最優秀ポスター賞 1 課題、優秀ポスター賞 3 課題を選出し表彰した。また、参加校のうち希望校 9 校に宿泊費の一部

を補助した。

- ・ 神奈川大会において、公開シンポジウム「いま改めて問う、土をどう教えるかー 土壌教育の再設計と未来の学習指導要領ー」を大会 3 日目の 13:00～16:00 に開催した (8/31)。

(3) 広報委員会

- ・ 学会 HP に「土と肥料」の講演会概要等の記事を掲載した。
- ・ 学会 HP に 2018 年度日本土壌肥料学会賞等授賞式・記念講演会の概要を掲載した。
- ・ 学会 HP に掲載した記事をフェイスブックにも掲載した。
- ・ 「エコプロダクツ 2018 (12/6～8 東京ビッグサイト)」に日本ペドロロジー学会と並んでブースを出展した。ブースには 500 名を超える見学者があった。

(4) 「国際土壌の 10 年」対応準備委員会

- ・ 企画、広報、渉外、教育及び部門長会議担当理事で組織する準備委員会を中心に、「国際土壌の 10 年」における日本土壌肥料学会の国際関連活動に対するご支援のお願いに関する趣意書、募集要項および支援申込書を作成し、会誌の発送に同封するとともにメールリングリストも活用し、広く寄付を呼び掛けた。

(5) 拡大財政基盤整備委員会

- ・ 大会運営支出の削減と参加者の利便性向上のため、講演要旨集を冊子体とせずにデジタル化して提供する方式について検討し、2019 年度静岡大会運営委員会に提案した。この方式では、大会参加に要する経費のうち、従来の登録費と要旨集代を一体化して新登録費とし、「従来の登録費+要旨集代」よりも「新登録費」の方が多少安くなるように設定した。なお、学生会員については負担増とならないよう配慮した。

(6) 男女共同参画学協会連絡会への対応

- ・ 女子中高生夏の学校 2018 ポスター展示・キャリア相談に出展した (8/10 国立女性教育会館)。ポスター展示のテーマを「生命と環境を支える「土壌」とは？」とし、実物の断面標本を用いて土壌の成り立ち、食糧・環境問題との関わり、注目されている研究テーマ等を解説した。
- ・ 連絡会が企画する「学術集会における演題発表者等の「属性調査」」に対応した。

6. 会務報告

(1) 会員の動向

- 1) 2019 年 2 月末における会員数は次のとおりである。

正会員 1,809 名 (うち会費免除会員 87 名、外国正会員 34 名)、賛助会員 37 団体、名誉会員 12 名、学生会員 361 名 (うち留学生 83 名)、国内団体購読会員 101 団体 合計 2,320 名 (団体)

- 2) 2018 年度中の入退会者数は次のとおりである。

入会：正会員 66 名 (うち海外正会員 1 名)、学生会員 138 名 (うち留学生 28 名)、賛助会員 1 団体、国内団体購読会員 1 団体 合計 207 名 (団体)

退会：正会員 123 名 (うち会費免除会員 6 名、海外正会員 2 名)、学生会員 122 名 (うち留学生 24 名)、賛助会員 1 団体、国内団体購読会員 1 団体 合

計 247 名（団体）

(2) 会議

- 1) 総会：2018 年 5 月 12 日、東京大学弥生講堂において第 41 回通常総会が開催された。本総会においては、①2017 年度事業報告、収支決算報告、公益目的支出計画実施報告および監査報告、②2018 年度事業計画案および収支予算案、③会費等の改定、④総会議事録署名人の選任について審議された。第 3 号議案「会費等の改定」については修正案が提案され、賛成多数で修正案が承認された。他の議案については、原案どおり承認された。その議事録を会誌 89 巻第 3 号に掲載した。
- 2) 理事会：学会事務所において 6 回開催され、所要の事項・会務を報告・審議した。その議事録を会誌のニュース欄に掲載した。主要な議題としては、①神奈川大会での学会賞等授賞式並びに記念講演のタイムスケジュールおよびシンポジウムの構成、②2018 年度選挙管理委員の選任、③会誌投稿規程・執筆規程の一部改定、④欧文誌特集セクションの提案、⑤学会賞等選考委員の選定、⑥第 41 回通常総会で承認された会費の改定、会費免除申請年齢の変更に伴う細則の一部改定、⑦大会講演要旨集のデジタル化に向けた検討、⑧ESAFS サポートオフィスの名称・運用法、⑨部門長の交代、⑩国際活動関連の諸案件、⑪2018 年度学会賞等及び論文賞等の選考結果の承認、⑫2019 静岡大会の予算案、⑬2020 年度年次大会の開催場所・日時・組織体制、⑭Rattan Lal 教授（日本国際賞受賞）の特別講演会企画、⑮若手会員海外渡航費の支援、⑯共催・後援・協賛等の申請・許諾、⑰細則 23 条による会費免除の申請、⑱入退会者の承認等について審議し、実施してきた。
- 3) 部門長会議：①第 1 回部門長会議はメール会議で実施した。神奈川大会におけるシンポジウムの公募に対して 8 件の応募があり、いずれも採択した。②第 2 回部門長会議（5/27）においては、神奈川大会のプログラム編成、シンポジウム企画案、ポスター賞の各部門への割当数及び審査スケジュール、部門長・副部門長の交代等について検討した。③第 3 回部門長会議（10/8）においては、静岡大会での第 9 部門の重複発表の承認、シンポジウムの採択方法・取扱い、次年度予算の積算、欧文誌への部門長会議からの提案等について検討した。
- 4) 2018 年度学会賞等選考委員会：学会事務所において、会長を議長として開催し、平成 31 年度日本農学賞候補者、第 64 回日本土壌肥料学会賞、第 24 回同技術賞、第 37 回同奨励賞および第 8 回同技術奨励賞の受賞者を選考した（10/19）。その結果は第 3 回理事会（10/20）での承認を経て、会誌 89 巻第 6 号に掲載した。また、同日午前、学会事務所において、論文賞等選考委員会を開催し、日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞論文と、SSPN Award 受賞論文を選考した。その結果も第 3 回理事会での承認を経て、会誌 89 巻第 6 号に掲載した。
- 5) 会誌編集関係：①投稿状況については、以前に比べて報文・ノートの投稿数が少なく、講座・技術レポート等の拡充が必要である。②新しい試みとして、和文で広く紹介したい欧文誌論文があれば、著者自らが和訳して会誌に「資料」として掲載できるようにした。③日本土壌肥料学雑誌は第 88 巻 6 号（2017）まで、日本土壌肥料学会講演要旨集は第 64 集（神奈川大会 2018）まで J-STAGE に公開した。今後、日本土壌肥料学雑誌は発刊から 1 年後を目安に公開するが、会員に対しては ID・パスワードを入力すれば閲覧できるようにした。講演要旨集については大会終

了後できるだけ速やかに公開することとした。

- 6) 欧文誌編集関係：①投稿数は例年と変わらず、とくに問題はない。②部門長会議提案の欧文誌レビューの企画が進められている。③欧文誌掲載論文を和訳して会誌に「資料」として掲載するために T&F 社と翻訳権に関する覚書を交わした。④SSPN 特集セクションについては、Sensing-ICT (Research frontiers on the use of sensing technologies and ICT for soil and fertilizer managements) 等 3 件の企画が進められている。⑤第 1・6・7 部門の編集委員を 1 名ずつ増員した。⑥データ共有ポリシーを投稿規定に追加した。

7) 支部における会議

北海道支部：第 1 回支部評議員会 (6/11 於北海道大学エンレイソウ 札幌市)、第 2 回支部評議員会および支部総会 (11/29 於旭川市民文化会館 旭川市) が開催された。

東北支部：支部役員会および支部総会 (7/3 於青森市文化観光交流施設 ねぶたの家 ワ・ラッセ 青森市) が開催された。

関東支部：支部幹事会および支部総会 (12/1 於朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 新潟市) が開催された。

中部支部：162 回支部評議員会 (5/29 於名古屋国際センター 名古屋市) が開催された。163 回支部評議員会および 79 回支部総会 (11/29 於静岡大学静岡キャンパス 静岡市) が開催された。

関西支部：支部総会および支部役員会 (12/8 於松江テルサ 松江市) が開催された。

九州支部：支部常議員会、支部賞選考委員会 (9/12 於東海大学熊本キャンパス 熊本市) および支部総会 (9/13 於同会場) が開催された。

(3) その他

- ・若手会員の海外学会等の参加渡航費補助金支給者の選考を行い、前期 1 名、後期 1 名に渡航費の一部支援を行った。
- ・2020 年度年次大会は馬 建鋒氏 (岡山大) を大会運営委員長とし、2020 年 9 月 8 日 (火) ~10 日 (木)、岡山大学において開催することを決定した。

Ⅱ. 2018（平成30）年度事業報告の附属明細書

事業報告の附属明細書として記載すべき事項はない。

Ⅲ. 2018（平成 30）年度収支決算報告書

一般正味財産増減の部

1. 経常収益

予算額より 172 万円増の 5,203 万円であった。

(1) 予算額に対して増加割合の大きな科目

- ④受取会費／学生会員受取会費（予算額より 23 万円増）
- ⑤事業収益／欧文誌投稿料・別刷代等（同 83 万円増）
- 同／支部大会収入（同 147 万円増）
- ⑧／受取寄付金振替額（同 40 万円増）
- ⑨／受託金（同 69 万円増）

(2) 予算額に対して減少割合の大きな科目

- ④受取会費／正会員受取会費（予算額より 29 万円減）
- 同／欧文誌購読会費受取会費（同 22 万円減）
- ⑤事業収益／会誌刊行等事業収益／会誌委託販売（同 22 万円減）
- 同／大会収入／雑収入（同 128 万円減）

2. 経常費用

予算額より 461 万円減の 5,525 万円であった。

(1) 予算額に対して増加割合の大きな支出科目

- ①事業費／支部大会開催費（予算額より 114 万円増）
- ②管理費／通信運搬費（同 29 万円増）

(2) 予算額に対して減少割合の大きな科目

- ①事業費／年次大会開催費（予算額より 170 万円減）
- 同／各種委員会等運営費／土壌教育委員会（同 60 万円減）
- 同／国際交流費（同 109 万円減）
- 同／女性・若手支援費（同 39 万円減）
- ②管理費／旅費交通費（同 62 万円減）
- 同／租税公課（同 83 万円減）

この結果、当期経常増減額は、－322 万円であった。

各事業の実施および管理費支出において、いっそうの節制が図られたため、予算

作成時に想定した赤字額(-955万円)は大幅に縮小された。

3. 経常外増減の部

なし

以上の結果、当期一般正味財産増減額は、-322万円であった。

一般正味財産期首残高は1億4,249万円だったので、同期末残高は1億3,927万円となった。

指定正味財産増減の部

国際関連活動基金としての受取寄付金が143万円であり、当期振替として40万円を一般正味財産に振替え、国際交流費に充当した。この結果、指定正味財産期末残高は103万円となった。

以上の結果から、正味財産期末残高は1億4,030万円となった。

予算対比正味財産増減計算書【管理費配賦前】

2018(平30)年3月1日から2019(平31)年2月28日まで

1/2

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	増 減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	1,500	847	653	
基本財産受取利息	(1,500)	(847)	653	
② 特定資産運用益	18,000	8,072	9,928	
特定資産受取利息	(18,000)	(8,072)	9,928	
③ 受取入会金	510,000	642,000	△ 132,000	
受取入会金	(510,000)	(642,000)	△ 132,000	3,000円×214人
④ 受取会費	24,690,000	24,460,000	230,000	
正会員受取会費	(16,800,000)	(16,512,000)	288,000	10,000円×1651人
学生会員受取会費	(1,680,000)	(1,914,000)	△ 234,000	6,000円×319人
団体会員受取会費	(2,020,000)	(2,060,000)	△ 40,000	20,000円×99団体、40,000円×2団体
欧文誌購読会費受取会費	(1,890,000)	(1,674,000)	216,000	6,000円×279人
賛助会員受取会費	(2,300,000)	(2,300,000)	0	50,000円×46口
⑤ 事業収益	24,755,000	25,562,772	△ 807,772	
会誌刊行等事業収益	(11,610,000)	(12,575,971)	△ 965,971	
会誌委託販売	(1,200,000)	(984,960)	215,040	養賢堂/会誌委託販売
会誌投稿料・別刷り代等	(2,700,000)	(2,814,740)	△ 114,740	89(2)~90(1)
会誌バックナンバー等	(10,000)	(0)	10,000	
欧文誌委託販売	(3,500,000)	(3,665,570)	△ 165,570	Taylor & Francis社ロイヤルティ
欧文誌投稿料・別刷代等	(4,150,000)	(4,982,665)	△ 832,665	64(2)~65(1)
欧文誌バックナンバー等	(0)	(0)	0	
講演要旨集(大会時外)	(0)	(71,200)	△ 71,200	バックナンバー等
出版物印税	(50,000)	(56,836)	△ 6,836	博友社/土壌環境分析法2017年度
大会収入	(11,645,000)	(10,141,462)	1,503,538	神奈川大会決算に基づく
参加料	(3,370,000)	(3,488,000)	△ 118,000	849名
発表料	(550,000)	(472,000)	78,000	1,000円×472題
講演要旨集(大会時)	(2,600,000)	(2,420,000)	180,000	4,000円×605部
懇親会費	(2,290,000)	(2,211,000)	79,000	335名
雑収入	(2,835,000)	(1,550,462)	1,284,538	寄付金他
広告料収入	(900,000)	(777,600)	122,400	
支部大会収入	(600,000)	(2,067,739)	△ 1,467,739	支部大会
⑥ 受取補助金等	0	0	0	
⑦ 受取助成金	0	0	0	
⑧ 受取寄付金	110,000	505,944	△ 395,944	
受取寄付金	(110,000)	(105,944)	4,056	SSPN Award副賞(Taylor & Francis社)
受取寄附金振替額	(0)	(400,000)	△ 400,000	国際関連活動基金より
⑨ 受託収入	0	691,200	△ 691,200	
受託金	(0)	(691,200)	△ 691,200	首都大学東京
⑩ 雑収入	220,000	154,451	65,549	
受取利息	(20,000)	(285)	19,715	普通預金利息
雑収益	(200,000)	(154,134)	45,866	学術著作権協会他
支部雑収入	(0)	(32)	△ 32	
経常収益計	50,304,500	52,025,286	△ 1,720,786	
(2) 経常費用				
① 事業費	39,099,720	36,343,836	2,755,884	
年次大会開催費	(11,645,840)	(9,945,611)	1,700,229	
会場費	(1,025,000)	(585,200)	439,800	日本大学規定に基づく
人件費	(765,000)	(944,200)	△ 179,200	学生アルバイト
運営費	(190,000)	(214,575)	△ 24,575	機材、運営諸費用
年次大会管理費	(3,873,960)	(4,083,804)	△ 209,844	運営業務委託費等
大会関係印刷費	(1,901,880)	(1,830,168)	71,712	講演要旨集印刷代
懇親会費	(2,850,000)	(1,900,432)	949,568	
その他雑費	(1,040,000)	(387,232)	652,768	
会誌刊行費	(12,930,000)	(12,894,925)	35,075	89(2)~90(1)
印刷製本費	(6,600,000)	(6,545,528)	54,472	
通信運搬費	(1,800,000)	(1,670,343)	129,657	
編集費	(4,530,000)	(4,679,054)	△ 149,054	
欧文誌刊行費	(5,400,000)	(5,655,271)	△ 255,271	64(2)~65(1)
印刷製本費	(4,100,000)	(4,200,658)	△ 100,658	
編集費	(1,300,000)	(1,454,613)	△ 154,613	
各種委員会等運営費	(1,572,280)	(711,847)	860,433	
土壌教育委員会	(1,120,000)	(517,650)	602,350	高校生による研究発表会宿泊費補助、委員会交通費
広報委員会	(452,280)	(194,197)	258,083	エコプロ出展料、学生アルバイト代他
その他	(0)	(0)	0	

次頁に続く

科 目	予算額	決算額	増 減	備考
学術交流費	(40,000)	(0)	40,000	
国際交流費	(2,730,000)	(1,636,780)	1,093,220	WGSS渡航費4名分、ICS旅費1名分
事業関係通信運搬費	(100,000)	(65,020)	34,980	振込手数料他
事業関係雑費	(35,000)	(77,000)	△ 42,000	神奈川大会シホジウム非会員懇親会費
事業関係業務委託費	(800,000)	(775,929)	24,071	The Soils of Japanに係る英訳及び英文校閲
農学会等分担金	(270,000)	(279,250)	△ 9,250	日本農学会、学術協力財団他
HP管理費	(156,600)	(156,600)	0	
顕彰費	(800,000)	(800,000)	0	学会賞、技術賞、技術奨励賞
女性・若手支援費	(1,020,000)	(630,000)	390,000	奨励賞2名、若手支援6名、若手の会補助他
国際シンポジウム費	(290,000)	(279,980)	10,020	東アジア窒素会議のシホジウムホステーション開催支援
国際土壌年事業費	(10,000)	(0)	10,000	
支部大会開催費	(1,300,000)	(2,435,623)	△ 1,135,623	
② 管理費	20,754,640	18,902,442	1,852,198	
役員報酬	(2,400,000)	(2,400,000)	0	
給料手当	(3,900,000)	(3,732,800)	167,200	
退職給付費用	(186,640)	(187,040)	△ 400	退職給付引当金繰入
法定福利費	(90,000)	(47,537)	42,463	労働保険
福利厚生費	(600,000)	(585,328)	14,672	社会保険
会議費	(128,000)	(112,732)	15,268	
総会	(68,000)	(79,660)	△ 11,660	
理事会	(10,000)	(13,820)	△ 3,820	
部門長会	(5,000)	(408)	4,592	
選考委員会	(5,000)	(0)	5,000	
選挙管理委員会	(10,000)	(9,820)	180	
その他会議費	(30,000)	(9,024)	20,976	大会引き継ぎ、監査他
旅費交通費	(3,500,000)	(2,884,220)	615,780	
通信運搬費	(800,000)	(1,090,769)	△ 290,769	電話FAX・切手・宅急便、代議員選挙書類送付代他
什器備品費	(50,000)	(0)	50,000	
消耗品費	(300,000)	(85,544)	214,456	
印刷製本費	(400,000)	(378,468)	21,532	総会資料他
事務所賃料等	(3,120,000)	(3,317,639)	△ 197,639	事務所家賃・共益費、更新料
光熱水料費	(250,000)	(249,931)	69	
リース料	(400,000)	(232,946)	167,054	PC、FAX等
保険料	(30,000)	(54,520)	△ 24,520	賃貸借年間補償委託料、火災保険料
租税公課	(1,000,000)	(173,300)	826,700	消費税、均等割、印紙
業務委託費	(3,500,000)	(3,269,012)	230,988	会員管理、会計業務他
雑費	(100,000)	(100,656)	△ 656	会計ソフトサポート他
経常費用計	59,854,360	55,246,278	4,608,082	
当期経常増減額	△ 9,549,860	△ 3,220,992	△ 6,328,868	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 9,549,860	△ 3,220,992	△ 6,328,868	
一般正味財産期首残高	142,488,547	142,488,547	0	
一般正味財産期末残高	132,938,687	139,267,555	△ 6,328,868	
II 指定正味財産増減の部				
① 受取補助金等				
受取寄付金	1,000,000	1,433,000	△ 433,000	国際関連活動基金
一般正味財産への振替額	0	400,000	△ 400,000	受取寄付金当期振替額(国際交流費に充当)
当期指定正味財産増減額	1,000,000	1,033,000	△ 33,000	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	1,000,000	1,033,000	△ 33,000	
III 正味財産期末残高	133,938,687	140,300,555	△ 6,361,868	

財 産 目 録
2019(平31)年2月28日現在

1/2

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金			
現金手許有高		運転資金として	534,613
普通預金		運転資金として	33,031,583
	みずほ銀行本郷支店(普)-1	運転資金として	(11,310,917)
	みずほ銀行(養賢堂)本郷支店(普)-2	運転資金として	(17,368,751)
	みずほ銀行本郷支店(普)-3	運転資金として	(3,698,848)
	三菱UFJ銀行本郷支店(普)-4	運転資金として	(400,106)
	三菱UFJ銀行本郷支店(普)-5	運転資金として	(252,961)
	00130-2-65874	運転資金として	13,201,697
郵便振替貯金			4,031,094
支部現金預金			
(1) 北海道支部		運転資金として	(549,409)
(2) 東北支部		運転資金として	(986,137)
(3) 関東支部		運転資金として	(210,567)
(4) 中部支部		運転資金として	(807,158)
(5) 関西支部		運転資金として	(637,517)
(6) 九州支部		運転資金として	(840,306)
現金預金合計			50,798,987
仮払金			
(1) その他			796
仮払金合計			796
未収金			
(1) 会費(団体会員)		2018年度	1,760,000
(2) 会費(賛助会員)			0
(3) 会誌投稿料・別刷代		2018年度	775,856
(4) 欧文誌委託販売		2018年度	745,570
(5) 欧文誌投稿料・別刷代		2018年度	782,007
(6) 広告料		2018年度	97,200
(7) 講演要旨集			0
未収金合計			4,160,633
流動資産合計			54,960,416
(固定資産)			
基本財産			
基本財産合計	みずほ銀行本郷支店(定)-1		10,000,000
特定資産			10,000,000
国際シンポジウム準備積立金	みずほ銀行本郷支店(定)-1		6,170,000
女性・若手会員支援事業積立金	みずほ銀行本郷支店(定)-2		17,700,000
表彰事業積立金	みずほ銀行本郷支店(定)-3		2,000,000
国際関連活動基金	三菱UFJ銀行本郷支店(普)-4		1,033,000
退職給付引当積立預金	みずほ銀行本郷支店(定)-5		1,255,680
事務所維持等積立金	三菱UFJ銀行本郷支店(定)-6		68,160,000
特定資産合計			96,318,680
その他固定資産			
保証金			(756,160)
その他固定資産合計			756,160
固定資産合計			107,074,840
資産合計			162,035,256
(流動負債)			
未払金		会誌刊行費、会計業務費他	793,151
前受会費		2019年度以降分会費	15,932,500
前受金		テイラー&フランス社 ロイヤリ	3,500,000
預り金		ティ2019年度分	66,330
		源泉税・社会保険1月~2月分	
流動負債合計			20,291,981
(固定負債)			
(1) 退職給付引当金			1,442,720
負債合計			21,734,701
正味財産			140,300,555

貸借対照表
2019(平31)年2月28日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	50,798,987	54,360,266	△ 3,561,279
仮払金	796	0	796
未収金	4,160,633	2,371,040	1,789,593
前払金	0	0	0
流動資産合計	54,960,416	56,731,306	△ 1,770,890
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特定資産			
国際シンポジウム準備積立金	6,170,000	6,170,000	0
女性・若手会員支援積立金	17,700,000	17,700,000	0
表彰事業積立金	2,000,000	2,000,000	0
国際関連活動基金	1,033,000	0	1,033,000
退職給付引当預金	1,255,680	1,255,680	0
事務所維持等積立金	68,160,000	68,160,000	0
特定資産合計	96,318,680	95,285,680	1,033,000
(3) その他固定資産			
保証金	756,160	756,160	0
その他固定資産合計	756,160	756,160	0
固定資産合計	107,074,840	106,041,840	1,033,000
資産合計	162,035,256	162,773,146	△ 737,890
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	793,151	2,867,589	△ 2,074,438
前受会費	15,932,500	13,177,000	2,755,500
前受金	3,500,000	2,920,000	580,000
預り金	66,330	64,330	2,000
流動負債合計	20,291,981	19,028,919	1,263,062
2. 固定負債			
退職給付引当金	1,442,720	1,255,680	187,040
固定負債合計	1,442,720	1,255,680	187,040
負債合計	21,734,701	20,284,599	1,450,102
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
国際関連活動寄付金	1,033,000	0	1,033,000
指定正味財産合計	1,033,000	0	1,033,000
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(1,033,000)	0	(1,033,000)
2. 一般正味財産	139,267,555	142,488,547	△ 3,220,992
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(94,030,000)	(94,030,000)	(0)
正味財産合計	140,300,555	142,488,547	△ 2,187,992
負債及び正味財産合計	162,035,256	162,773,146	△ 737,890

正味財産増減計算書
2018(平30)年3月1日から2019(平31)年2月28日まで

1/2

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	847	420	427
基本財産受取利息	(847)	(420)	427
② 特定資産運用益	8,072	5,369	2,703
特定資産受取利息	(8,072)	(5,369)	2,703
③ 受取入金	642,000	609,000	33,000
受取入金	(642,000)	(609,000)	33,000
④ 受取会費	24,460,000	24,956,000	△ 496,000
正会員受取会費	(16,512,000)	(16,890,000)	△ 378,000
学生会員受取会費	(1,914,000)	(1,938,000)	△ 24,000
団体会員受取会費	(2,060,000)	(2,040,000)	20,000
欧文誌購読会員受取会費	(1,674,000)	(1,788,000)	△ 114,000
賛助会員受取会費	(2,300,000)	(2,300,000)	0
⑤ 事業収益	25,562,772	23,830,249	1,732,523
印刷物収入	(12,575,971)	(11,495,371)	1,080,600
大会収入	(10,141,462)	(10,691,009)	△ 549,547
広告料収入	(777,600)	(777,600)	0
支部大会収入	(2,067,739)	(866,269)	1,201,470
⑥ 受取補助金等	0	0	0
⑦ 受取助成金	0	0	0
⑧ 受取寄付金	505,944	111,820	394,124
受取寄付金	(105,944)	(111,820)	△ 5,876
受取寄附金振替額	(400,000)	(0)	400,000
⑨ 受託収益	691,200	0	691,200
⑩ 雑収入	154,451	1,507,462	△ 1,353,011
受取利息	(285)	(4,726)	△ 4,441
雑収益	(154,134)	(455,702)	△ 301,568
支部雑収入	(32)	(1,047,034)	△ 1,047,002
経常収益計	52,025,286	51,020,320	1,004,966
(2) 経常費用			
① 事業費	50,515,753	46,991,580	3,524,173
年次大会開催費	(9,945,611)	(10,514,132)	△ 568,521
会誌刊行費	(12,894,925)	(11,946,683)	948,242
欧文誌刊行費	(5,655,271)	(5,348,820)	306,451
各種委員会等運営費	(711,847)	(744,573)	△ 32,726
国際交流費	(1,636,780)	(1,956,436)	△ 319,656
事業関係通信運搬費	(65,020)	(68,152)	△ 3,132
事業関係雑費	(77,000)	(49,000)	28,000
事業関係業務委託費	(775,929)	(0)	775,929
農学会等分担金	(279,250)	(266,850)	12,400
HP管理費	(156,600)	(173,400)	△ 16,800
顕彰費	(800,000)	(740,000)	60,000
女性・若手支援費	(630,000)	(845,780)	△ 215,780
国際シンポジウム費	(279,980)	(0)	279,980
国際土壌年事業費	(0)	(0)	0
支部大会開催費	(2,435,623)	(2,378,608)	57,015
役員報酬	(1,920,000)	(1,680,000)	240,000
給料手当	(2,986,240)	(2,205,120)	781,120
臨時雇賃金	(0)	(0)	0
退職給付費用	(149,632)	(111,408)	38,224
法定福利費	(38,030)	(20,507)	17,523
福利厚生費	(468,262)	(351,335)	116,927
会議費	(22,546)	(30,235)	△ 7,689
旅費交通費	(1,730,532)	(2,227,361)	△ 496,829
通信運搬費	(872,615)	(716,256)	156,359
消耗品費	(25,663)	(31,736)	△ 6,073
印刷製本費	(302,774)	(174,960)	127,814
事務所賃料等	(2,654,111)	(1,837,462)	816,649
光熱水料費	(199,945)	(124,450)	75,495
リース料	(186,357)	(230,444)	△ 44,087
業務委託費	(2,615,210)	(2,217,872)	397,338

次頁に続く

科 目	当年度	前年度	増 減
② 管理費	4,730,525	7,780,059	△ 3,049,534
役員報酬	(480,000)	(720,000)	△ 240,000
給料手当	(746,560)	(1,470,080)	△ 723,520
臨時雇賃金	(0)	(0)	0
退職給付費用	(37,408)	(74,272)	△ 36,864
法定福利費	(9,507)	(13,671)	△ 4,164
福利厚生費	(117,066)	(234,224)	△ 117,158
会議費	(90,186)	(120,942)	△ 30,756
旅費交通費	(1,153,688)	(1,484,908)	△ 331,220
通信運搬費	(218,154)	(179,064)	39,090
消耗品費	(59,881)	(74,049)	△ 14,168
印刷製本費	(75,694)	(43,740)	31,954
事務所賃料等	(663,528)	(1,224,974)	△ 561,446
光熱水料費	(49,986)	(124,450)	△ 74,464
リース料	(46,589)	(98,761)	△ 52,172
保険料	(54,520)	(25,520)	29,000
租税公課	(173,300)	(274,750)	△ 101,450
業務委託費	(653,802)	(1,478,582)	△ 824,780
雑費	(100,656)	(138,072)	△ 37,416
減価償却費	(0)	(0)	0
経常費用計	55,246,278	54,771,639	474,639
当期経常増減額	△ 3,220,992	△ 3,751,319	530,327
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 3,220,992	△ 3,751,319	530,327
一般正味財産期首残高	142,488,547	146,239,866	△ 3,751,319
一般正味財産期末残高	139,267,555	142,488,547	△ 3,220,992
II 指定正味財産増減の部			
① 受取補助金等			
受取寄付金	1,433,000	0	1,433,000
一般正味財産への振替額	400,000	0	400,000
当期指定正味財産増減額	1,033,000	0	1,033,000
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	1,033,000	0	1,033,000
III 正味財産期末残高	140,300,555	142,488,547	△ 2,187,992

正味財産増減計算書（内訳表）
2018(平30)年3月1日から2019(平31)年2月28日まで

1/2

（単位：円）

科 目	実施事業等会計	法人会計	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
① 基本財産運用益	0	847	847	420	427
基本財産受取利息	(0)	(847)	(847)	(420)	427
② 特定資産運用益	0	8,072	8,072	5,369	2,703
特定資産受取利息	(0)	(8,072)	(8,072)	(5,369)	2,703
③ 受取入会金	0	642,000	642,000	609,000	33,000
受取入会金	(0)	(642,000)	(642,000)	(609,000)	33,000
④ 受取会費	0	24,460,000	24,460,000	24,956,000	△ 496,000
正会員受取会費	(0)	(16,512,000)	(16,512,000)	(16,890,000)	△ 378,000
学生会員受取会費	(0)	(1,914,000)	(1,914,000)	(1,938,000)	△ 24,000
団体会員受取会費	(0)	(2,060,000)	(2,060,000)	(2,040,000)	20,000
欧文誌購読会員受取会費	(0)	(1,674,000)	(1,674,000)	(1,788,000)	△ 114,000
賛助会員受取会費	(0)	(2,300,000)	(2,300,000)	(2,300,000)	0
⑤ 事業収益	25,562,772	0	25,562,772	23,830,249	1,732,523
印刷物収入	(12,575,971)	(0)	(12,575,971)	(11,495,371)	1,080,600
大会収入	(10,141,462)	(0)	(10,141,462)	(10,691,009)	△ 549,547
広告料収入	(777,600)	(0)	(777,600)	(777,600)	0
支部大会収入	(2,067,739)	(0)	(2,067,739)	(866,269)	1,201,470
⑥ 受取補助金等	0	0	0	0	0
受取補助金	(0)	(0)	(0)	(0)	0
⑦ 受取助成金	0	0	0	0	0
受取助成金	(0)	(0)	(0)	(0)	0
⑧ 受取寄付金	505,944	0	505,944	111,820	394,124
受取寄付金	(105,944)	(0)	(105,944)	(111,820)	△ 5,876
受取寄附金振替額	(400,000)	(0)	(400,000)	(0)	400,000
⑨ 受託収益	0	691,200	691,200	0	691,200
受託収益	(0)	(691,200)	(691,200)	(0)	691,200
⑩ 雑収入	0	154,451	154,451	1,507,462	△ 1,353,011
受取利息	(0)	(285)	(285)	(4,726)	△ 4,441
雑収益	(0)	(154,134)	(154,134)	(455,702)	△ 301,568
支部雑収入	(0)	(32)	(32)	(1,047,034)	△ 1,047,002
経常収益計	26,068,716	25,956,570	52,025,286	51,020,320	1,004,966
(2) 経常費用					
① 事業費	50,515,753	0	50,515,753	46,991,580	3,524,173
年次大会開催費	(9,945,611)	(0)	(9,945,611)	(10,514,132)	△ 568,521
会誌刊行費	(12,894,925)	(0)	(12,894,925)	(11,946,683)	948,242
欧文誌刊行費	(5,655,271)	(0)	(5,655,271)	(5,348,820)	306,451
各種委員会等運営費	(711,847)	(0)	(711,847)	(744,573)	△ 32,726
国際交流費	(1,636,780)	(0)	(1,636,780)	(1,956,436)	△ 319,656
事業関係通信運搬費	(65,020)	(0)	(65,020)	(68,152)	△ 3,132
事業関係雑費	(77,000)	(0)	(77,000)	(49,000)	28,000
事業関係業務委託費	(775,929)	(0)	(775,929)	(0)	775,929
農学会等分担金	(279,250)	(0)	(279,250)	(266,850)	12,400
HP管理費	(156,600)	(0)	(156,600)	(173,400)	△ 16,800
顕彰費	(800,000)	(0)	(800,000)	(740,000)	60,000
女性・若手支援費	(630,000)	(0)	(630,000)	(845,780)	△ 215,780
国際シンポジウム費	(279,980)	(0)	(279,980)	(0)	279,980
国際土壌年事業費	(0)	(0)	(0)	(0)	0
支部大会開催費	(2,435,623)	(0)	(2,435,623)	(2,378,608)	57,015
役員報酬	(1,920,000)	(0)	(1,920,000)	(1,680,000)	240,000
給料手当	(2,986,240)	(0)	(2,986,240)	(2,205,120)	781,120
退職給付費用	(149,632)	(0)	(149,632)	(111,408)	38,224
法定福利費	(38,030)	(0)	(38,030)	(20,507)	17,523
福利厚生費	(468,262)	(0)	(468,262)	(351,335)	116,927
会議費	(22,546)	(0)	(22,546)	(30,235)	△ 7,689
旅費交通費	(1,730,532)	(0)	(1,730,532)	(2,227,361)	△ 496,829
通信運搬費	(872,615)	(0)	(872,615)	(716,256)	156,359
消耗品費	(25,663)	(0)	(25,663)	(31,736)	△ 6,073
印刷製本費	(302,774)	(0)	(302,774)	(174,960)	127,814
事務所賃料等	(2,654,111)	(0)	(2,654,111)	(1,837,462)	816,649
光熱水料費	(199,945)	(0)	(199,945)	(124,450)	75,495
リース料	(186,357)	(0)	(186,357)	(230,444)	△ 44,087
業務委託費	(2,615,210)	(0)	(2,615,210)	(2,217,872)	397,338

次頁に続く

科 目	実施事業等会計	法人会計	当年度	前年度	増 減
② 管理費	0	4,730,525	4,730,525	7,780,059	△ 3,049,534
役員報酬	(0)	(480,000)	(480,000)	(720,000)	△ 240,000
給料手当	(0)	(746,560)	(746,560)	(1,470,080)	△ 723,520
臨時雇賃金	(0)	(0)	(0)	(0)	0
退職給付費用	(0)	(37,408)	(37,408)	(74,272)	△ 36,864
法定福利費	(0)	(9,507)	(9,507)	(13,671)	△ 4,164
福利厚生費	(0)	(117,066)	(117,066)	(234,224)	△ 117,158
会議費	(0)	(90,186)	(90,186)	(120,942)	△ 30,756
旅費交通費	(0)	(1,153,688)	(1,153,688)	(1,484,908)	△ 331,220
通信運搬費	(0)	(218,154)	(218,154)	(179,064)	39,090
消耗品費	(0)	(59,881)	(59,881)	(74,049)	△ 14,168
印刷製本費	(0)	(75,694)	(75,694)	(43,740)	31,954
事務所賃料等	(0)	(663,528)	(663,528)	(1,224,974)	△ 561,446
光熱水料費	(0)	(49,986)	(49,986)	(124,450)	△ 74,464
リース料	(0)	(46,589)	(46,589)	(98,761)	△ 52,172
保険料	(0)	(54,520)	(54,520)	(25,520)	29,000
租税公課	(0)	(173,300)	(173,300)	(274,750)	△ 101,450
業務委託費	(0)	(653,802)	(653,802)	(1,478,582)	△ 824,780
雑費	(0)	(100,656)	(100,656)	(138,072)	△ 37,416
減価償却費	(0)	(0)	(0)	(0)	0
經常費用計	50,515,753	4,730,525	55,246,278	54,771,639	474,639
当期經常増減額	△ 24,447,037	21,226,045	△ 3,220,992	△ 3,751,319	530,327
2. 經常外増減の部					
(1) 經常外収益					
經常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 經常外費用					
經常外費用計	0	0	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 24,447,037	21,226,045	△ 3,220,992	△ 3,751,319	530,327
一般正味財産期首残高	△ 37,461,708	179,950,255	142,488,547	146,239,866	△ 3,751,319
一般正味財産期末残高	△ 61,908,745	201,176,300	139,267,555	142,488,547	△ 3,220,992
II 指定正味財産増減の部					
① 受取補助金等					
受取寄付金	1,433,000	0	1,433,000	0	1,433,000
一般正味財産への振替額	400,000	0	400,000	0	400,000
当期指定正味財産増減額	1,033,000	0	1,033,000	0	1,033,000
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	1,033,000	0	1,033,000	0	1,033,000
III 正味財産期末残高	△ 60,875,745	201,176,300	140,300,555	142,488,547	△ 2,187,992

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

退職給付引当金・・・期末退職給与の自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(2) 消費税等の会計処理

税込処理

2. 会計方針の変更

なし

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	0	10,000,000
小 計	10,000,000	0	0	10,000,000
特定資産				
国際シンポジウム準備積立金	6,170,000	0	0	6,170,000
女性・若手会員支援積立金	17,700,000	0	0	17,700,000
表彰事業積立金	2,000,000	0	0	2,000,000
国際関連活動基金	0	1,033,000	0	1,033,000
退職給付引当預金	1,255,680	0	0	1,255,680
事務所維持等積立金	68,160,000	0	0	68,160,000
小 計	95,285,680	1,033,000	0	96,318,680
合 計	105,285,680	1,033,000	0	106,318,680

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味財産からの 充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	0	10,000,000	0
小 計	10,000,000	0	10,000,000	0
特定資産				
国際シンポジウム準備積立金	6,170,000	0	6,170,000	0
女性・若手会員支援積立金	17,700,000	0	17,700,000	0
表彰事業積立金	2,000,000	0	2,000,000	0
国際関連活動基金	1,033,000	1,033,000	0	0
退職給付引当預金	1,255,680	0	0	1,255,680
事務所維持等積立金	68,160,000	0	68,160,000	0
小 計	96,318,680	1,033,000	94,030,000	1,255,680
合 計	106,318,680	1,033,000	104,030,000	1,255,680

5. 担保に供している資産

なし

6. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の当期末残高	債権の当期末残高
未収金	4,160,633	0	4,160,633
合 計	4,160,633	0	4,160,633

7. 保証債務等の偶発債務

なし

8. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
なし

9. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
指定正味財産から一般正味財産への振替の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
国際関連活動寄付金	400,000
経常外収益への振替額	0
合 計	400,000

10. 重要な後発事象
なし

附属明細書
2019（平31）年2月28日現在

1. 基本財産及び特定資産の明細

『財務諸表に対する注記』の通り

2. 引当金の明細

（単位：円）

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	1,255,680	187,040	0	0	1,442,720

【別紙1：公益目的支出計画実施報告書】

2. 公益目的支出計画実施報告書

【平成30年度(平成30年3月1日から平成31年2月28日まで)の概要】

1. 公益目的財産額	134,846,045 円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額(+ -)	135,043,870 円
前事業年度末日の公益目的収支差額	111,629,833 円
当該事業年度の公益目的支出の額	50,515,753 円
当該事業年度の実施事業収入の額	27,101,716 円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	-197,825 円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由 ^注	

注：詳細は、別紙様式に個別の実施事業等ごとに記載してください。

【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の 完了予定事業年度の末日	・ 計画上の完了見込み	平成31年2月28日
	・ より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額	134,846,045 円	134,846,045 円	134,846,045 円	134,846,045 円	0 円
公益目的収支差額	113,346,340 円	111,629,833 円	138,112,358 円	135,043,870 円	0 円
公益目的支出の額	48,264,518 円	46,991,580 円	48,264,518 円	50,515,753 円	0 円
実施事業収入の額	23,498,500 円	23,942,069 円	23,498,500 円	27,101,716 円	0 円
公益目的財産残額	21,499,705 円	23,216,212 円	0 円	-197,825 円	0 円


前事業年度及び当該事業年度の計画及び実績の額、翌事業年度の計画の額を記載してください。

2019年3月20日

監査報告書

一般社団法人 日本土壤肥料学会
会長 犬伏 和之 殿

監事 深見元弘 

監事 上沢正志 

私たち監事は、2018年3月1日から2019年2月28日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法および結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書監査結果

計算書類及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

(3) 公益目的支出計画実施報告書の監査結果

公益目的支出計画実施報告書は法令又は定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

第2号議案 2019年度事業計画および収支予算案

I. 2019（平成31）年度事業計画

1. 定期刊行物および資料の刊行

(1) 定期刊行物

日本土壌肥料学雑誌（第90巻第2号～第6号および第91巻第1号の計6冊、A4判）、Soil Science and Plant Nutrition（Vol.65, No.2～No.6, Vol.66, No.1の計6冊、A4判）および2019年度静岡大会に際して日本土壌肥料学会講演要旨集（第65集）を刊行する。なお、2019年度より講演要旨集は冊子体を作らず、電子版とする。

(2) その他の刊行物

Springer社よりThe Soils of Japanを刊行する。博友社よりシンポジウムシリーズの刊行を予定している。

2. 講演会および研究会等の開催、支援

(1) 「土と肥料」の講演会

2019年5月11日（土）、総会終了後に、東京大学山上会館において「土と肥料」の講演会を開催する。テーマを「田んぼの土と肥料を考える～カリとイオウの不足を例として～」とし、講演者と演題は、中田均氏「富山県におけるカリ不足土壌の現状と課題」および菅野均志氏「水稻におけるイオウ欠乏の現状と対策」である。なお、本講演会は日本学術会議の後援を得て実施する。

(2) 2019年度年次大会

2019年9月3日（火）～5日（木）、静岡大学農学部農学総合棟（一般講演）、静岡大学共通教育A棟（シンポジウム）および静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ（学会賞等授賞式・記念講演）において年次大会を開催する。学会賞等授賞式、受賞記念講演、懇親会は4日（水）に行う。

シンポジウムのテーマについては、従来と同じく会員に公募し、これを基に部門長会議で検討して設定することとしている。

学会賞等授賞式では、第64回日本土壌肥料学会賞3名、第24回同技術賞1名、第37回同奨励賞5名、第8回同技術奨励賞3名に各賞を授与するとともに、受賞者の記念講演を行う。また、論文賞2件およびSSPN Award 1件の受賞者については、各賞を授与するとともに、受賞記念ポスターを展示する。

また、平成31年度日本農学賞・読売農学賞を受賞された馬建鋒氏（岡山大学）の受賞記念講演、さらにIUSS会長に就任された小崎隆氏（愛知大学）とJapan Prize（日本国際賞）を受賞されたRattan Lal氏（オハイオ州立大学）の特別講演を予定している。

平成 31 年度日本農学賞・読売農学賞受賞者

- ・馬 建鋒：作物のミネラル輸送機構に関する研究

第 64 回 日本土壌肥料学会賞受賞者

- ・高橋 正：火山灰土壌の多様性の解明—アルミニウム-腐植複合体の機能を中心に
- ・豊田剛己：連作障害の原因となる土壌伝染性病原菌・線虫の生態、診断、防除に関する研究
- ・早津雅仁：土壌微生物の物質変換機構の解析とその未知機能解明への展開

第 24 回 日本土壌肥料学会技術賞受賞者

- ・原 嘉隆：水稲湛水直播のためのべんモリ種子被覆技術の開発

第 37 回 日本土壌肥料学会奨励賞受賞者

- ・須田碧海：還元状態の土壌における有害元素の溶出・不溶化に関する研究
- ・西田 翔：大規模塩基配列解析技術を利用した植物の低栄養条件に対する適応機構の研究
- ・仁科一哉：マルチスケールにおける土壌の炭素・窒素循環の空間変動要因の解明および定量評価に関する研究
- ・増田寛志：鉄・亜鉛栄養価の高いイネの作出に関する研究
- ・横正健剛：イネのアルミニウム耐性と鉄輸送に関与する MATE 遺伝子の機能解析

第 8 回 日本土壌肥料学会技術奨励賞受賞者

- ・齋藤 隆：農耕地における放射性セシウムおよび土壌残留性農薬による作物汚染低減技術の開発
- ・速水 悠：施設栽培果菜類における灌水および施肥の適正管理技術の確立
- ・安田知子：家畜糞堆肥化施設由来臭気の生物脱臭技術の高度化に向けた研究開発

日本土壌肥料学雑誌論文賞受賞者

- ・金田吉弘、谷野弘和、高階史章、佐藤 孝、保田謙太郎：重粘土大区画水田における地下灌漑システム FOEAS が高温登熟条件下における水稲収量および外観品質に及ぼす影響
- ・松中照夫、中村亜紀良、橋本亜弓：酸性黒ボク土の酸性矯正による施与リンの肥効改善効果は黒ボク土やリン資材の種類によって変化する

SSPN Award 受賞者

- ・ Mei Li, Michiko Yasuda, Hiroko Yamaya-Ito, Masumi Maeda, Nobumitsu Sasaki, Maki Nagata, Akihiro Suzuki, Shin Okazaki, Hitoshi Sekimoto, Tetsuya Yamada, Naoko Ohkama-Ohtsu & Tadashi Yokoyama : Involvement of programmed cell death in suppression of the number of root nodules formed in soybean induced by *Bradyrhizobium* infection

(3) 支部大会等

- ・北海道支部：第 21 回日本土壌肥料学会北海道支部野外巡検(時期・場所未定)および 2019 年度秋季支部大会・支部総会(11 月下旬～12 月上旬、札幌近郊)を主催する。

また、第1回支部評議員会(6月上旬 北海道大学)、第2回支部評議員会(11月下旬～12月上旬、秋季支部大会の昼休み時間)を開催する。

- ・東北支部：東北支部大会、支部役員会および支部総会を開催する(7/2～3 福島県相馬市)。
- ・関東支部：関東支部大会、支部幹事会および支部総会を開催する(11/30 長野市生涯学習センター)。
- ・中部支部：第80回中部支部総会、第99回支部例会を開催する(11/27～28 名古屋大学)。また、第164回支部評議員会(日程・場所調整中)、第165回支部評議員会(11/27 中部土壌肥料研究会と同時開催 名古屋大学)を開催する。
- ・関西支部：関西支部講演会(12月初旬)および支部役員会(講演会の翌日)を鳥取市で開催する(日程、会場は未定)。
- ・九州支部：九州支部例会、支部賞選考委員会、2019年度支部常議員会並びに支部総会を開催する(8～9月 長崎県)。

3. 研究の奨励および研究業績の表彰

定款および細則に基づき、第65回日本土壌肥料学会賞、第25回同技術賞、第38回同奨励賞、第9回同技術奨励賞、第9回同貢献賞、日本土壌肥料学雑誌論文賞、SSPN Awardなど顕著な業績を挙げた者を表彰する。

4. 内外の研究者、技術者、他学会等との連絡および協力

定期刊行物の国内外との交換、国内関連学会等と共催の研究討論会等を行い、学術交流・国際交流の強化を図る。

- ・日本学術会議公開シンポジウム「サステイナブルな社会に向けた科学技術と自然界での炭素・水素・酸素・窒素の循環の調和(日本学術会議講堂 4/12)」を協賛する。
- ・ヨーロッパ地球科学連合大会(EGU:ウィーン 4月)に代表者を派遣する。
- ・日本地球惑星連合(JpGU)2019年連合大会セッション「Materials transport and nutrient cycles in watersheds; from headwaters to coastal seas」(5月)を共催する。
- ・国際会議「International Workshop on Environmental Engineering 2019」並びに同時開催の第29回環境工学総合シンポジウム(6/25～28)を協賛する。
- ・第56回アイソトープ・放射線研究発表会(7/3～5 東京大学弥生講堂)を協賛する。
- ・IUSS WRB Workshop(モンゴル・ウランバートル 7月)に代表者を派遣する。
- ・日本国際賞受賞のRattan Lal教授を招聘し、特別講演会を開催する(9月)。
- ・9th ESSC International Congress(9月)に代表者を派遣する。
- ・ラテンアメリカ土壌科学会(ウルグアイ・モンテビデオ 10月)に代表者を派遣する。
- ・ESAFS(台湾・台北 11月)に代表者および役員を派遣する。

5. 本学会の委員会等活動

- ・企画委員会：総会終了後に開催する「土と肥料」の講演会を企画する。また、「国際土壌の10年」に関連した事業を企画する。
- ・土壌教育委員会：①静岡大会において高校生による研究発表会を実施する（9/3～5）。②自然観察の森に土壌断面の説明等が書かれた野外解説板を設置する（場所未定）。③教員研修およびその他の普及事業を行う（時期・場所未定）。
- ・財政基盤整備委員会：引き続き支出の削減に努めるとともに、積極的に収入の拡大策を検討し、収支バランスの改善を図る。
- ・広報委員会：①学会ホームページのさらなる改善を図る。②メールマガジン等による情報発信の活性化を図る。③土壌教育委員会とともにエコプロダクツ 2019 にブースを出展する（2019.12）。
- ・男女共同参画学協会連絡会：連絡会が行う企画に参加する。

6. その他、本学会の目的達成のための事業

- ・外部からの顕彰および研究助成の推薦依頼に対応する。
- ・規程に基づき、若手正会員及び学生会員の海外学会参加渡航費の一部を支援する。
- ・各理事担当の年間業務を整理し、円滑化を図る。

II. 2019（平成31）年度収支予算案

一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部の経常収益

前年度予算額よりも114万円増の5,144万円を見込んでいる。主な増減は以下のように見込まれる。

(1) 前年度に比べて増加が見込まれる科目

- ④受取会費／正会員受取会費は、会費を値上げしたことにより前年度予算額よりも195万円増の1,875万円。
- 同／学生会員受取会費は、会費を値上げしたことにより前年度予算額よりも42万円増の210万円。

(2) 前年度に比べて減少が見込まれる科目

- ④受取会費／欧文誌購読会費は前年度予算額よりも33万円減の156万円。
- ⑤事業収益／会誌委託販売は前年度予算額よりも20万円減の100万円。
- 同／大会収入／講演要旨集(大会時)は冊子体の発行をやめることを受けて260万円減。

2. 経常増減の部の経常費用

前年度予算額よりも341万円減の5,644万円を見込んでいる。主な増減は以下のように見込まれる。

(1) 前年度に比べて増加が見込まれる科目

- ①事業費／国際交流費は、IUSS会長派遣、ESAFS対応などで67万円増の340万円。
- 同／女性・若手支援は奨励賞受賞者の増などで23万円増の125万円。
- ②管理費／臨時雇い賃金は役員交代にかかる費用で20万円増。
- 同／リース料はPC3台・複合機の更新のため40万円増の80万円。

(2) 前年度に比べて減少が見込まれる科目

- ①事業費／年次大会開催費／大会関係印刷費は冊子体の販売がないため190万円減。
- 同／会誌刊行費／編集費は初期システム費用の削減で258万円減。
- 同／事業関係業務委託費は「刊行物」編集終了で80万円減。
- 同／国際シンポジウム費は「国際シンポジウム」予定なしで29万円減。
- ②管理費／租税公課は40万円減。
- 同／業務委託費は会員管理等の業務の一部を職員が行うことで20万円減。

これらのことから、当期経常増減額は500万円の赤字が見込まれる。前年度経常増

減額－955 万円に比べて赤字が減ったのは、会費値上げによる収益増と経常費用①事業費／会誌刊行費のうち、査読システム初期費用等および事業関係業務委託費による支出がなくなったためと考えられる。会員数の減少が続いているため、次年度以降もいっそうの節制に努める必要がある。

一方、計画した事業の実施を円滑に推進するためには、来年度も寄付を募るなどの収益増を図る必要がある。会員各位のご理解、ご協力をお願いしたい。

指定正味財産増減の部

国際関連活動基金として 100 万円の受取寄付金を見込んでいる。

以上の結果から、正味財産期末残高は 236 万円減の 1 億 3,630 万円が見込まれる。

(一社) 日本土壌肥料学会2019年度収支予算書(損益ベース)(案)

2019(平成31)年3月1日から2020年2月29日まで

1/2

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	400	1,500	△ 1,100	
基本財産受取利息	(400)	(1,500)	△ 1,100	
② 特定資産運用益	10,000	18,000	△ 8,000	
特定資産受取利息	(10,000)	(18,000)	△ 8,000	
③ 受取入会金	510,000	510,000	0	
受取入会金	(510,000)	(510,000)	0	3,000円×170人
④ 受取会費	26,560,000	24,690,000	1,870,000	
正会員受取会費	(18,750,000)	(16,800,000)	1,950,000	12,500円×1,500人
学生会員受取会費	(2,100,000)	(1,680,000)	420,000	7500円×280人
団体会員受取会費	(1,900,000)	(2,020,000)	△ 120,000	20,000円×100団体
欧文誌購読会費	(1,560,000)	(1,890,000)	△ 330,000	6,000円×260人
賛助会員受取会費	(2,250,000)	(2,300,000)	△ 50,000	50,000円×45口
⑤ 事業収益	24,200,000	24,755,000	△ 555,000	
会誌刊行等事業収益	(11,370,000)	(11,610,000)	△ 240,000	
会誌委託販売	(1,000,000)	(1,200,000)	△ 200,000	
会誌投稿料・別刷り代等	(2,700,000)	(2,700,000)	0	90(2)～91(1)
会誌バックナンバー等	(0)	(10,000)	△ 10,000	
欧文誌委託販売	(3,500,000)	(3,500,000)	0	Taylor & Francis
欧文誌投稿料・別刷代等	(4,150,000)	(4,150,000)	0	65(2)～66(1)
欧文誌バックナンバー等	(0)	(0)	0	
講演要旨集(大会時外)	(0)	(0)	0	バックナンバー等
その他印刷物	(0)	(0)	0	
出版物印税	(20,000)	(50,000)	△ 30,000	博友社印税
大会収入	(11,130,000)	(11,645,000)	△ 515,000	静岡大会運営委予算案に基づく
参加料	(5,100,000)	(3,370,000)	1,730,000	
発表料	(550,000)	(550,000)	0	
講演要旨集(大会時)	(0)	(2,600,000)	△ 2,600,000	
懇親会費	(2,650,000)	(2,290,000)	360,000	
雑収入	(2,830,000)	(2,835,000)	△ 5,000	協賛金等
広告料	(900,000)	(900,000)	0	
支部大会収入	(800,000)	(600,000)	200,000	
⑥ 受取補助金等	0	0	0	
受取補助金	(0)	(0)	0	
⑦ 受取助成金	0	0	0	
受取助成金	(0)	(0)	0	
⑧ 受取寄付金	110,000	110,000	0	
受取寄付金	(110,000)	(110,000)	0	SSPN Award副賞(Taylor & Francis)
受取寄附金振替額		(0)	0	
⑨ 受託収入	0	0	0	
受託金	(0)	(0)	0	
⑩ 雑収入	50,000	220,000	△ 170,000	
受取利息	0	20,000	△ 20,000	
雑収益	(50,000)	(200,000)	△ 150,000	
支部雑収入	(0)	(0)	0	
経常収益計	51,440,400	50,304,500	1,135,900	
(2) 経常費用				
① 事業費	35,750,880	39,099,720	△ 3,348,840	
年次大会開催費	11,130,000	11,645,840	△ 515,840	静岡大会運営委予算案に基づく
会場費	(400,000)	(1,025,000)	△ 625,000	規定に基づく
人件費	(1,200,000)	(765,000)	435,000	学生アルバイト
運営費	(800,000)	(190,000)	610,000	機材、運営諸費用
年次大会管理費	(4,900,000)	(3,873,960)	1,026,040	委託(HP作成・運営、登録受付、演題要旨受付/後処理等)
大会関係印刷費	(0)	(1,901,880)	△ 1,901,880	講演要旨集
懇親会費	(2,650,000)	(2,850,000)	△ 200,000	
その他雑費	(1,180,000)	(1,040,000)	140,000	会議費、託児所設置等
会誌刊行費	10,350,000	12,930,000	△ 2,580,000	90(2)～91(1)
印刷製本費	(6,600,000)	(6,600,000)	0	
通信運搬費	(1,800,000)	(1,800,000)	0	
編集費	(1,950,000)	(4,530,000)	△ 2,580,000	国際文献社編集費、査読システム利用料等
欧文誌刊行費	5,450,000	5,400,000	50,000	65(2)～66(1)
印刷製本費	(4,100,000)	(4,100,000)	0	
編集費	(1,350,000)	(1,300,000)	50,000	

次頁に続く

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備考
各種委員会等運営費	1,472,280	1,572,280	△ 100,000	
土壌教育委員会	(1,000,000)	(1,120,000)	△ 120,000	土壌教育委員会活動
広報委員会	(452,280)	(452,280)	0	広報活動(エコプロ出展他)
その他	(20,000)	(20,000)	0	男女共同参画学協会会費、資料代等
学術交流費	30,000	40,000	△ 10,000	土と肥料の講演会
国際交流費	3,400,000	2,730,000	670,000	IUSS会長派遣、ESAFS対応、EGUブース開設分担金 他
事業関係通信運搬費	100,000	100,000	0	
事業関係雑費	42,000	35,000	7,000	静岡大会シンポジウム非会員演者懇親会参加費
事業関係業務委託費	0	800,000	△ 800,000	
農学会等分担金等	270,000	270,000	0	日本農学会分担金、日本学術協力財団
HP管理費	156,600	156,600	0	HP更新、メルマガ運用
顕彰費	700,000	800,000	△ 100,000	学会賞、技術賞、技術貢献賞 他
女性・若手支援費	1,250,000	1,020,000	230,000	奨励賞、渡航支援、若手の会補助 他
国際シンポジウム費	0	290,000	△ 290,000	
国際土壌年事業費	100,000	10,000	90,000	国際土壌の10年に係る支部活動支援
支部大会開催費	1,300,000	1,300,000	0	
② 管理費	20,691,730	20,754,640	△ 62,910	
役員報酬	2,400,000	2,400,000	0	
給料	3,900,000	3,900,000	0	
法定福利費	95,000	90,000	5,000	労働保険
福利厚生費	600,000	600,000	0	健保
臨時雇い賃金	200,000	0	200,000	
会議費	140,000	128,000	12,000	
総会	(110,000)	(68,000)	42,000	東大山上会館大会議室他使用料
理事会	(10,000)	(10,000)	0	
部門長会	(5,000)	(5,000)	0	
選考委員会	(5,000)	(5,000)	0	
選挙管理委員会	(0)	(10,000)	△ 10,000	
その他会議費	(10,000)	(30,000)	△ 20,000	
旅費・交通費	(3,500,000)	(3,500,000)	0	
通信運搬費	800,000	800,000	0	
什器備品費	50,000	50,000	0	
消耗品費	200,000	300,000	△ 100,000	
印刷製本費	400,000	400,000	0	総会資料等
事務所賃料等	3,120,000	3,120,000	0	家賃等12ヶ月分
光熱水料費	250,000	250,000	0	
リース料	800,000	400,000	400,000	PC(3台)および複合機の更新、リース料
保険料	30,000	30,000	0	
租税公課	600,000	1,000,000	△ 400,000	消費税、法人税、他
業務委託費	3,300,000	3,500,000	△ 200,000	会員管理、会計業務
雑費	100,000	100,000	0	
退職給付引当金繰入	206,730	186,640	20,090	
経常費用計	56,442,610	59,854,360	△ 3,411,750	
当期経常増減額	△ 5,002,210	△ 9,549,860	4,547,650	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
① 雑収益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
① 雑損失	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 5,002,210	△ 9,549,860	4,547,650	
一般正味財産期首残高	139,267,555	142,488,547	△ 3,220,992	
一般正味財産期末残高	134,265,345	132,938,687	1,326,658	
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
① 受取補助金等				
助成金収入				
受取寄付金	1,000,000	1,000,000	0	国際関連活動基金
一般正味財産への振替額	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	1,000,000	1,000,000	0	
指定正味財産期首残高	1,033,000	0	1,033,000	
指定正味財産期末残高	2,033,000	1,000,000	1,033,000	
Ⅲ 正味財産期末残高	136,298,345	133,938,687	2,359,658	

第3号議案 役員の新任・退任の承認

役員の新任（2019年度通常総会～2021年度通常総会）

会長	波多野隆介*
副会長	妹尾啓史*・齋藤雅典
理事	木村 武 渡邊浩一郎・相崎万裕美 竹本 稔・永田 修 青野俊裕・齋藤勝晴 矢内純太・大塚重人・松浦里江 金澤健二 高野順平・加藤 拓 赤羽幾子
監事	上沢正志*・深見元弘* (*選挙により当選)

役員の退任（2017年度通常総会～2019年度通常総会）

会長	犬伏和之
副会長	波多野隆介・木村 武
常務理事	原田靖生・安西徹郎
会計担当理事	渡邊浩一郎・相崎万裕美
会誌担当理事	須藤重人・竹本 稔
欧文誌担当理事	國頭 恭・青野俊裕
渉外担当理事	矢内純太・大塚重人・松浦里江
部門長会議担当理事	木村秀也
広報担当理事	高田裕介・高野順平
教育担当理事	菅野均志
監事	上沢正志・深見元弘

第4号議案 名誉会員の推薦

米山忠克会員は、「植物栄養—その特異なシステム」をテーマに東京大学農学系大学院修士、博士課程、国際イネ研究所、国立公害研究所、農業技術研究所、農業生物資源研究所、農業研究センター、筑波大学応用生物化学系（併任）および東京大学農学生命科学研究科において植物栄養学の研究に精励し、優れた研究業績をあげてきた。この間の主な成果は①¹⁵Nを用いた窒素同化の研究、②植物生長・生産をささえる窒素の循環的利用：篩管移行の意義、③サトウキビのエンドファイテック窒素固定、④イネにおけるカドミウム、鉄、亜鉛、銅の篩管移行である。これらの業績により、1991年に日本土壌肥料学会賞、1992年に科学技術庁長官賞、2013年に日本農学賞・読売農学賞を受賞している。

委員等については、1998年から2003年まで **International Crops Research Institute for Semi-Arid Tropics** の理事、2003年から2009年まで内閣府 食品安全委員会 専門委員、2010年から2017年まで独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構副理事長を務めた。

日本土壌肥料学会においては、1989年から1992年まで欧文誌担当理事、1996年から1998年まで第4部門の部門長、2002年から2004年まで日本土壌肥料学雑誌編集委員長、2006年から2008年まで会長を務めた。その間、バランスのとれた財政を実現するとともに、日本土壌肥料学会倫理要綱を制定し、広報活動の活発化を図るなど、本会の発展に大きく貢献した。さらに、2006年9月から2007年12月まで **East and South Asia Federation of Soil Science Societies (ESAFS)** の会長を務め、2007年10月に第8回 **ESAFS** をつくば市において開催した。

以上の功績により、2018年度第4回理事会において、定款第5条2(4)に基づき米山忠克会員を名誉会員に推薦することとしたので、審議をお願いしたい。

参考

2019 年度役員、代議員等一覽

役員（19 名）

会長	波多野隆介
副会長	妹尾啓史・齋藤雅典
常務理事（常勤）	木村 武
会計担当理事	相崎万裕美・渡邊浩一郎
会誌担当理事	竹本 稔・永田 修
欧文誌担当理事	青野俊裕・齋藤勝晴
渉外担当理事	矢内純太・大塚重人・松浦里江
部門長会議担当理事	金澤健二
広報担当理事	高野順平・加藤 拓
教育担当理事	赤羽幾子
監事	深見元弘・上沢正志

代議員（100 名）

（北海道支部 定員 11 名）

石黒宗秀、岡 紀邦、奥村正敏、三枝俊哉、澤本卓治、志賀弘行、竹内晴信、谷 昌幸
中辻敏朗、松本武彦、渡部敏裕

（東北支部 定員 11 名）

青山正和、金田吉弘、信濃卓郎、鈴木雄二、高橋 正、高橋智紀、中川進平、西田瑞彦
藤井弘志、牧野 周、牧野知之

（関東支部 定員 40 名）

秋山博子、荒尾知人、安西徹郎、石川 覚、伊藤豊彰、犬伏和之、江口定夫、大島宏行
太田寛行、大谷 卓、大友 量、大山卓爾、岡崎正規、加藤直人、金子文宜、鎌田 淳
上山紀代美、川東正幸、久保寺秀夫、後藤逸男、白戸康人、新町文絵、隅田裕明、高橋令二
田中治夫、豊田剛己、鳥山和伸、長坂克彦、新良力也、野口 章、長谷川功、原田久富美
樋口恭子、平井英明、藤原俊六郎、藤原 徹、前島勇治、山口紀子、横山 正、吉川省子

（中部支部 定員 11 名）

浅川 晋、一家崇志、磯井俊行、小川直人、糟谷真宏、齋藤明広、瀧 勝俊、日置雅之
原 正之、村瀬 潤、渡邊 彰

（関西支部 定員 17 名）

岩崎貢三、上野秀人、内山知二、遠藤常嘉、小林 優、実岡寛文、真常仁志、田中壮太
中尾 淳、藤間 充、藤嶽暢英、牧 浩之、馬 建鋒、増永二之、間藤 徹、横山和平
和崎 淳

（九州支部 定員 10 名）

上野大介、荒川祐介、古賀伸久、佐伯雄一、境 雅夫、正司和之、染谷 孝、樗木直也
平舘俊太郎、山川武夫

部門長

(第1部門) 江口定夫 (第2部門) 高橋 正 (第3部門) 大友 量
(第4部門) 馬 建鋒 (第5部門) 小原 洋 (第6部門) 矢内純太
(第7部門) 柴原藤善 (第8部門) 白戸康人 (第9部門) 平井英明

支部長

北海道 岡 紀邦 東北 高橋 正 関東 横山 正
中部 浅川 晋 関西 増永二之 九州 佐伯雄一

会誌編集委員会

委員長 鳥山和伸

常任編集委員 藤田 裕、小林孝行、小八重善裕、中尾 淳、白鳥 豊、浅木直美
諸 人誌、井上博道、蓮川博之、松田 晃、石塚成宏、前田守弘

地域担当編集委員

北海道 谷 昌幸、中村卓司、中本 洋 東北 山本岳彦、齋藤 隆、西田瑞彦
関東 大脇良成、八島未和、山田和義 中部 小川直人、福島 務、福島朋行
関西 大家理哉、牧 浩之、増永二之 九州 長友 誠、佐伯雄一、古賀伸久

欧文誌編集委員会

委員長 牧野知之

国内編集委員 妹尾啓史、森田明雄、小山博之、江口定夫、吉田修一郎、飯山一平
橋本洋平、柳由紀子、高橋 正、眞家永光、青野俊裕、齋藤明広、池永 誠、杉原 創
大友 量、渡邊健史、小八重善裕、馬 建鋒、丸山明子、鈴木雄二、小林高範、山地直樹
中西啓仁、三輪京子、渡邊哲弘、今矢明宏、矢内純太、松本真悟、唐澤敏彦、原 嘉隆
柴原藤善、加藤雅彦、中辻敏朗、佐野修司、浦川梨恵子、古賀伸久、南川和則、武田 晃
白戸康人、高階史章、藤間 充

海外編集委員 Reiner Wassmann、Randy A. Dahlgren、Xiaoyuan Yan、Jae E. Yang
Zucong Cai、Ping He、Yong-Guan Zhu、Sanjib Kumar Panda、Miftahudin
Jerzy Lipiec、Audthasit Wongmaneroj、Bentio Heru Purwanto、Georg Guggenberger

土壌教育委員会

委員長 隅田裕明

副委員長 田村憲司 事務局長 藤間 充 顧問 福田 直、平井英明

委員 村野宏達、齋藤雅典、三枝俊哉、早川 敦、森 圭子、浅川 晋、豊田 鮎
浅野陽樹

2019年度年次大会（静岡）運営委員会

運営委員長：森田明雄

事務局長：一家崇志

会 計：小川直人、鮫島玲子

運営委員：渥美和彦、内山道春、江本勇治、切岩祥和、齋藤明広、坂本 淳、中村明弘
南雲俊之、廣野祐平、福島 務、藤本敏文、二又裕之、松浦英之